

全国地質調査業協会連合会 ジオ・ラボ ネットワーク事務局：北海道土質試験協同組合

- ・北海道土質試験協同組合
 - ・協同組合土質屋北陸
 - ・関東土質試験協同組合
 - ・中部土質試験協同組合
 - ・協同組合関西地盤環境研究センター
 - ・協同組合岡山県土質試験センター
 - ・協同組合島根県土質技術研究センター
 - ・協同組合広島県土質試験センター
 - ・宮崎県地質調査業協同組合
- なお、記事に関するお問い合わせは各組合へお願いいたします。

【活動状況】

ジオ・ラボネットワーク事務局

<http://www.src.or.jp/>

ジオ・ラボネットワーク 10周年記念事業の一環として研修会を開催しました。

日時：平成30年7月18日～19日

場所：大阪キャッスルホテル，協同組合関西地盤環境研究センター

第1日目

開会挨拶：寺西一哲理事長（関西）

◇土質試験管理者養成講座◇

- (1) 「土質試験管理者とは」：中山専務理事（関西地盤環境研究センター）
- (2) 「技術者倫理」：西形達明先生（関西顧問）
- (3) 「土質試験業務のマネジメント」：山内昇 部長（北海道）

◇特別講演◇

地盤改良に及ぼす土質試験結果：田中克己 様（株）不動テトラ

◇交流会◇

開会挨拶：榊理事長（北海道）、乾杯：石倉理事長（島根）、中締め：窪田副理事長（関西）

第2日目

◇圧密試験に関する意見交換◇

田口（関東）：「圧密試験における供試体寸法が μ にどのような影響を与えるか」、江守（北陸）：「加賀平野北部の沖積粘土の圧密特性」、遠藤（関西）：「圧密試験編」

◇改良土に関する意見交換◇

服部（関西）：改良土に関する話題提供「平成27年度技能試験報告」、宇山（北海道）：「パワーブレンダー工法における室内配合試験について」、松村（中部）：「室内配合試験（一軸）における供試体作製について」、梅本（関西）：「関西組合の改良土について」、立川（岡山）：「配合試験の試験機の紹介と供試体の作製方法」、松浦（島根）：「河川浚渫土の農用地利用における配合試験」、中原（広島）：「固化材配合土による締固め試験について」、長友（宮崎）：「軟岩を盛土材料とする場合の配合試験の試案と効果」
(文責：中山義久)



ジオ・ラボ ネットワーク通信 2018.8 第57号

協同組合土質屋北陸 mail to : info@doshitsuya.or.jp

6月28日(木)第37回通常総会の前に「上映会とトークイベント」を金沢21世紀美術館で開催。

関東土質試験協同組合 mail to : uketsuke@rc.or.jp
 室内土質試験研修会開催

今年も恒例の「室内土質試験研修会」を開催しました。この研修会は、平成7年に組合員への土質試験の啓蒙を目的に始まりました。バブル崩壊と組合員の減少が顕在化した時期に中止されていましたが、平成19年に復活し、今年で12回を数えます。当初は組合員のみでしたが、徐々に員外の会社への浸透もあって、今年度は組合員、員外を含めて9名の参加者がありました。一回では全員に十分研修してもらえない状況と判断し、初めて2回(5月22日～25日)、(6月5日～8日)に分けての研修会となりました。組合員各社には新人、若手職員への教育の一環として組合を活用していただき、嬉しい限りです。

研修終了後にアンケート調査を実施したところ、実技をもっと詳しく体験したい、次には岩石の試験を体験したいなどの要望も頂きました。

今後組合としては、さらに多くの組合員各社に周知、活用していただくべく、土質試験だけでなく、岩石試験、材料試験等の研修会開催も検討してまいります。



物理試験試料調整中



力学試験供試体作製中



塑性限界試験体験中



三軸試験供試体設置体験中

(文責：池田龍一)

中部土質試験協同組合

mail to : info@geolabo-chubu.com

●第1回 組合職員技術発表会の開催

当組合では、今期は組合創立40期を迎えている。創立以来、初めての試みである組合内での技術発表会を、H30年7月30日(金)14:00~17:00に実施しました。

発表内容は、普段個人的に勉強していることや、業務と平行して実施している研究的な内容を職場の仲間に伝えるとともに、お互いの意見交換を行うことで、プレゼン能力の向上+ジオ・ラボ中部のチームワーク向上の一環として試みました。

各人が、PPTを用いて15分程度の持ち時間で発表を行い、1件ごとに質疑応答を実施しました。

実施結果では、各人が業務に精通すべく努力していることとプレゼン能力が非常に高くなってきていることを感じました。今後もこの努力を継続していきます。

(個人発表内容)



(写真：発表風景)

氏名	題 目
久保	北上川流域の自然堆積粘土の力学特性 (地盤工学会高松発表)
加藤	組合での液性限界試験の測定方法
小倉	簡易CU試験での新旧試験方法比較と、先日の豪雨のライドショー
池田	地盤工学会「三軸講習会参加報告」
岩田	SWSの実施から試験結果報告まで
石原	細粒分含有率試験とデータ入力/凍結成形動画
伊藤	関東ロームの特徴と性質
松村	配合試験における供試体作成について
清水	固有値解析を用いた土構造物・地盤系の耐震性評価
竹内	この一年間の活動報告(+高松でのフォーラム発表)

(文責：坪田邦治)

協同組合関西地盤環境研究センター

mail to : info@ks-dositu.or.jp

・計量証明事業を廃止しました

当組合は平成13年3月に計量証明事業を立ち上げ、17年間実施して参りました。

近年、環境分析業務が縮小傾向にあり、当組合でも諸施策に取り組んで参りましたが、市場価格の低下、受注量の減少など事業環境が厳しさを増す中で、業績の回復が困難な状況となりました。

上記のような状況から、計量証明事業を継続する事は困難と判断し、平成30年5月の通常総会で承認を頂き、廃止する事と致しました。

皆様におきましては何かとご不便をお掛けする事となりますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

尚、今後環境分析試験につきましては、専門の分析業者をご紹介させていただきますので、詳細は当組合ホームページ (<http://www.ks-dositu.or.jp>) でご確認ください。

(文責：森 辰義)

協同組合広島県土質試験センター

mail to : office@hiroshima-soil.jp

(1) 第36回通常総会が開催されました

平成30年5月25日、ひろしま国際ホテルにおいて理事・組合員10名(書面出席を含め15社)出席のもと通常総会が開催されました。藤原理事長が議長に就任し、審議の結果下記の議案などが承認されました。

- ・平成29年度事業報告及び決算承認の件
- ・平成30年度事業計画及び予算案承認の件

平成29年度の売上目標3,400万円に対し、年間売上4,064万円(計画比119%)と予算を大きく上回ることができました。昨年度大幅な伸びを見せた三軸試験において、昨対13%減とは言え、ため池関連調査が引き続き好調であること、また道路関連の調査や新たな員外からの継続的な受注が確保できたことが要因となっています。平成30年度も一層の努力をして参りたいと思います。

(文責：岩城基子)

(2) 平成30年度土質試験見学会を開催しました

5月6日に室内土質試験見学会を開催しました。昨年同様、多くの参加者(7社17名)がありました。

不かく乱試料(シンウオール)の抜き取り後、湿潤密度・一軸圧縮、三軸圧縮、圧密試験の供試体の整形・試験実施しました。

供試体の整形・試験機へのセット等、通常業務で実施していることが、参加者にとって非常に興味深く質問など多く感じました。

その後、休憩をはさみ物理試験(粒度・液性限界・塑性限界等)を説明、実施して予定通りに終了しました。

当日参加できなかった方も後日見学され、熱心に質問されていましたが、満足して帰られました。今後も継続的・積極的にPR活動していきたいと思っております。



三軸圧縮試験説明風景

(文責：常田 徹)

【技術フォーラム2018 高松に参加します】

「技術フォーラム2018」高松では、各地の土質試験協同組合職員による技術論文の発表に加えてブース展示にてジオ・ラボネットワークの活動や各地の土質試験協同組合を紹介いたします。気軽にお越しください。

藤村 亮（関西）「粒度（沈降分析）の測定方法の検討」

竹内啓介（中部）「供試体作製時の含水比と作製方法が及ぼす透水係数への影響」

三好功季（関西）「礫分粒度調整方法の違いが三軸圧縮試験結果に与える影響について」

大和田明徳（北海道）「骨材のアルカリシリカ反応試験（化学法）における試料調整の影響について」

山田賢治（関東）「花崗岩におけるひずみゲージの長さが変形係数及びポアソン比にどのような影響をもたらすか」
(文責：折笠章)

【試験器具導入のお知らせ】

北海道土質試験協同組合

<http://www.src.or.jp/>

当組合の試験技術分野の幅を拡げ、お客様の多様化するニーズに応えることができるように下記分析装置を導入いたしました。ご利用お待ち申し上げております。

○流体包有物試験装置

鉱物結晶中に存在する流体を顕微鏡で観察しながら加熱（-190～600℃）し、包有物中の気泡の消失温度（均質化温度）の測定により、地層温度や鉱物の生成温度、溶液の塩濃度（NaCl）等を知ることができるため、地熱資源調査、鉱床調査などに利用されます。



○走査電子顕微鏡＋エネルギー分散型X線分析装置

走査電子顕微鏡は、電子線を利用して物質の表面を観察する装置で、光学顕微鏡に比べて焦点深度が深く立体的な像を鮮明に見ることができ、医学・材料分野をはじめとする多分野で広く利用されています。この顕微鏡にエネルギー分散型X線分析装置を組合せることにより、微小領域の元素分析を行うことができ、火山灰分析、コンクリート分析、考古試料分析などへの利用が見込まれます。



○蛍光X線分析装置

蛍光X線分析装置は、X線を照射した試料から発生する固有X線（蛍光X線）を測定し、対象試料の含有元素（Na以上の原子番号元素）を定性または定量分析ができます。当該装置は分解能と感度に優れている波長分散型で、検量線法を用いた高精度定量分析や非破壊試料のまま迅速な半定量分析が可能で、各種材料や土壌などの成分分析の測定においては有効な分析手法です。
(文責：折笠章)

